弊社ＳＲＩ業務に関して、新聞紙上において以下のように紹介されております。

２００６年７月８日（土）日本経済新聞　１５面

投資で「私も社会貢献」

環境や消費者に優しく、企業の社会的責任（ＣＳＲ）にも積極的な会社に投資することで、結果的に良い運用成績も期待できる――。そんな「社会的責任投資（ＳＲＩ）」という考え方を取り入れた投資信託（投信）が人気を集めている。購入者に女性が目立つというＳＲＩ投信の現状を探ってみた。

人気高まるＳＲＩ投信　大和証券投資信託委託が三月に設定した「ダイワ・エコ・ファンド」。設定から一カ月足らずで純資産額は五百億円を超え、ＳＲＩ投信の人気の高さを裏付けた。日本郵政公社が六月から取り扱いを始めた四本の投信の中でも、女性を中心に人気を集めているのはＳＲＩ投信だという。　調査会社、インテグレックスの秋山をね社長はＳＲＩ人気について「社会問題や環境への意識が高い女性が大事なお金を投資するなら、納得できる企業にしたいと考えているため」と分析している。投資の形で環境に優しい企業などを支援することが間接的ながら社会貢献にもつながるというわけだ。　現在、ＳＲＩの考え方を取り入れた投信で一般に販売されているものは二十五本程度。そのうち、主に国内株式で運用している投信は十八本、純資産額は合計約二千四百億円（ＱＵＩＣＫ・ＱＢＲ調べ、六月末時点）で、この一年間で約八割も増えている。ただ同じ国内株式型のＳＲＩ投信といっても、表に示したように銘柄の選び方はそれぞれ異なる。

長期の好成績期待　たとえば往信アセットマジメントの「往信ＳＲＩジャパンオープン―グッドカンパニー」では、日本総合研究所と連携し法令順守、社会貢献、環境、経済という四つの「責任」から企業を評価してランキング。候補銘柄を約三百に絞り込む。この中から業種分散を考えたうえで、実際に投資する銘柄を選ぶ。三沢淳一・運用第二部長は「単純にランキング上位銘柄に投資するより、業種を分散させた方が長い目で安定した利益を得やすい」と話す。　一方で、「ダイワ・エコ・ファンド」のように環境にテーマを絞り込んで運用する例も多い。もともとＳＲＩ投信は環境に特化した投信が一九九九年ごろに相次いで設定されたのが始まり。いまでもＳＲＩ投信のなかでは最も数が多い。最近では、環境問題の中でもさらに地球温暖化防止を重視する企業に限定して投資する投信や、育児支援策を取り入れるなど女性の働きやすい企業に投資する投信など、特色のある投信も増えてきた。　収益の一部を寄付に回すＳＲＩ投信も目立つ。朝日ライフアセットマネジメントの「朝日ライフＳＲＩ社会貢献ファンド―あすのはね」は、信託報酬の一部を慈善団体への寄付に充てる。幼児虐待や環境、高齢化、教育などの社会問題に取り組む団体が対象。社内で開く選定委員会で毎年、寄付先を決定している。ファンドマネージャーの吉田佳代さんは寄付について「投資を通じた社会貢献という理念を徹底するため」と話す。寄付先や金額は運用報告書などで開示している。こうした投信に投資すれば、より直接的に社会貢献につながることになる。

運用手数料やや高め　ＳＲＩ投信の運用手数料（信託報酬）は一％台後半が多く、通常の株式投信と比べやや高めになっている。投資銘柄の絞り込みに当たって、調査会社のデータだけでなく、海外の消費者団体にアンケート調査を行うなど、コストをかけているケースもあるからだ。投資先を選ぶ手続きはホームページなどで開示していることが多いので、信託報酬と見比べながらチェックしてみよう。　ＳＲＩ投信には「ＣＳＲに積極的な企業は消費者から信頼されるため、成長が継続し長い目で見ると株価も高くなる可能性が大きい」（往信アセットの三沢部長）という考え方が投資の背景にある。グラフではインテグレックスが選ぶＣＳＲ評価の上位三百銘柄だけを投資対象に運用したと仮定した場合の騰落率と、東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）の推移

を比べた。期間が長くなるほど、ＣＳＲ評価上位の銘柄で得られる収益の方が大きくなっており、こうした考え方が裏付けられていることが分かる。　ただ、ＣＳＲなどに力を入れている企業は大企業が多いことから、結果的にＳＲＩ投信に組み入れられている銘柄は「値動きの少ない大型株に偏りがち」（投資評価会社モーニングスターの保坂昇シニアアナリスト）。相場変動に合わせた投資手法の変更や銘柄入れ替えが少ないこともあり、「短期的な利益を得たい人には向かない」保坂氏は指摘する。　社会貢献を優先してＳＲＩ投信に投資するのであれば、目論見書などに明記されている運用理念をよく確認しよう。そのうえで、自分のお金がどのように使われ、どのように社会に役立つのか、共感できる投信を選びたい。

主なSRI投信					
ファンド名	運用会社	投資対象の選別基準	信託報酬	純資産（億円）	設定年月
往信SRIジャパンオープン（グッドカンパニー）	往信	法令順守、社会貢献、環境、経済	1.680%	578	2003/12
ダイワ・エコ・ファンド	大和	環境	1.596%	564	2006/03
日興エコファンド	日興	環境	1.575%	418	1999/08
損保ジャパン・グリーン・オープン（ぶなの森）	損保ジャパン	環境	1.575%	167	1999/09
AIG/りそなジャパンCSRファンド（誠実の杜）	AIG	企業統治、環境、社会貢献	1.890%	140	2005/03
ダイワSRIファンド	大和	経営陣の言動、企業の透明性、企業倫理、法令順守	1.596%	105	2004/05
AIG－SAIKYO日本株式CSRファンド（すいれん）	AIG	企業統治、環境、社会貢献	1.890%	61	2005/03
エコ・ファンド	興銀第一ライフ	環境	1.575%	56	1999/10
朝日ライフSRI社会貢献ファンド（あすのはね）	朝日ライフ	環境、雇用、顧客対応、市民社会貢献、企業倫理、法令順守	1.869%	48	2000/09
フコクSRIファンド	しんきん	財務、環境、社会貢献、企業倫理	1.470%	42	2004/04
（注）エコファンド含む。QUICK・QBR調べ。データは6月末時点。ファンド名のカッコ内は愛称。運用会社名は略称					